

Frontiers in plant environmental response research: local signaling, long-distance communication and memory for developmental plasticity

開催期間：2019年11月18, 19日

開催場所：名古屋大学 野依記念学術交流館

主催者：新学術領域研究「環境記憶統合」、名古屋大学 研究大学強化促進事業 最先端情報分子・植物最適行動統御ユニット

共催者・後援者等：名古屋大学卓越大学院プログラム GTR, 井上科学振興財団, 名古屋大学高等研究院, 名古屋大学大学院生命農学研究科

参加人数：139人

【活動報告】

新学術領域研究「環境記憶統合」(代表 木下俊則)と名古屋大学 研究大学強化促進事業 最先端情報分子・植物最適行動統御ユニット (代表 榊原均)によって、国際会議「Frontiers in plant environmental response research : local signaling, long-distance communication and memory for developmental plasticity」が、11月18, 19日に名古屋大で開催されました。

本会議では植物環境応答の分野をリードする著名な海外研究者・国内研究者を招聘し、植物の長距離シグナル・記憶現象・局所的な環境応答の仕組みを議論しました。海外から Sally Assmann 教授(Pen State Univ.), Stacey Harmer 教授(UC Davis), Hannes Kollist 教授(Univ. of Tartu), Gabriel Krouk 教授(CNRS)らの発表があり、多様な視点からの植物の環境応答に関する議論で盛り上がりました。

また若手研究者・大学院生からのポスター発表も51件、行われました。ポスター会場ではとても白熱した議論が多く見られました。大学院生にとって、最先端の国際的な研究者と交流することは自身の研究にアドバイスとなり、また将来のキャリアを考える際にとっても参考になったようです。この場をお借りして、本国際会議をサポートしてくださいました GTR に感謝いたします。

2019年11月18日 本会議の参加者の集合写真

